



原子力発電所の事故と復興のあゆみ

考えてみよう！

原子力発電所の事故を乗り越えて次代の社会を形成するためにどのような課題を克服すべきかを考えながら、福島第一原子力発電所の事故による被害や復興に向けた取組を見ていきましょう。12-1

2-1

福島第一原子力発電所事故とその後の復興の様子

(1) 福島第一原子力発電所事故について

12-2

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震及びそれに伴う津波により、安全対策が不十分であった東京電力株式会社の福島第一原子力発電所では原子炉を冷やす機能が失われ、高温になった燃料棒が溶けてしまいました。さらに、原子炉内に閉じ込めておかなければならない放射性物質を閉じ込めておく機能が劣化したため、放射性物質が大気中に放出され、福島県をはじめ東日本の広範囲に拡散し、被害をもたらしました。¹また、この過程で原子炉から発生した水素ガスが爆発し、原子炉建屋が損壊しました。⁵このため、事故の後、国は速やかな避難指示や食品の出荷制限などの対応を行いました。この事故で放出された放射性物質の量は、昭和 61 年（1986 年）にソビエト連邦（現在のウクライナ）で起きたチェルノブイリ原子力発電所事故の約 7 分の 1であり、福島県が平成 30 年 4 月までに県民等に対して実施した内部被ばくによる放射線の量を測定する検査の結果によれば、検査を受けた全員が健康に影響が及ぶ数値ではなかったとされています。

12-3

12-4

12-5

12-6

12-7

5 現在、福島第一原子力発電所では、廃炉作業が進められていますが、継続的な注水により原子炉を冷却することで、福島第一原子力発電所の原子炉は安定した状態を維持しています。
廃炉・汚染水対策ポータルサイト（経済産業省）http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo_osensui/index.html